

シンラの旅-16 「宮城」 猫たちの聖地



エッセイ
芦原伸



SINRA

CONTENTS

各見出しリンク

▶ **SINRA-1 2014.9**
「小豆島」 オリーブカントリー

▶ **SINRA-2 2014.11**
「秋田」 マタギの里へ

▶ **SINRA-3 2015.1**
「富岡」 富岡製糸場の歩き方

▶ **SINRA-4 2015.3**
「北海道」 北海道ワイン紀行

▶ **SINRA-5 2015.5**
「小笠原」 黒潮の孤島鶴来島漂流

▶ **SINRA-6 2015.7**
「大台ヶ原」 熊野古道をいく

▶ **SINRA-7 2015.9**
「信州木曾谷」 森林鉄道が消えた日

▶ **SINRA-8 2015.11**
「霊峰月山」 死と再生の小宇宙

▶ **SINRA-9 2016.1**
「丹後」 古代王国と、絹をめぐる道

▶ **SINRA-10 2015.3**
「秩父」 絶滅危惧種再生へ、開ける道

▶ **SINRA-11 2016.5**
「佐賀」 大海を越えた胡蝶の夢

▶ **SINRA-12 2016.7**
「津軽」 ブラキストン幻の海

▶ **SINRA-13 2016.9**
「五島列島」 クジラたちの海

▶ **SINRA-14 2016.11**
「飯田」 天空の里、遠山郷

▶ **SINRA-15 2017.1**
「北海道」 ジンギスカンをめぐる冒険

▶ **SINRA-16 2017.3**
「宮城県」 猫たちの聖地

▶ **SINRA-17 2017.5**
「京都」 神が授けた、いのちの水

▶ **SINRA-18 2017.7**
「熊楠」 の森をめぐる冒険

▶ **SINRA-19 2017.9**
「カナダ」 極北の大地に生命が燃える

▶ **SINRA-20 2017.11**
「宮崎」 神楽仮面の謎を探る

ご購入

 Fujisan.co.jp
雑誌がオンライン書店

ご購入

 amazon.co.jp
プライム

宮城県

猫たちの聖地

文・芦原 伸(ノンフィクション作家) 撮影/戸川 覚

SINRA
の
旅

宮城県には猫を神様として祀る“猫神社”(祠)が11カ所存在する。

“猫神様”の石碑は他県に比べ圧倒的に多く、丸森町だけで現在73基が確認されている。

また石巻市の田代島は近年、“猫島”として有名だ。

江戸時代、養蚕が盛んだったこの島ではネズミから繭を守るために猫が飼われ、

大事にされていたという。人々の暮らしを支え、信仰の対象でもあった

“猫神様”のルーツを探るため、宮城県を訪れた。



丸森町

「猫の島」として知られる宮城県
石巻市・田代島。島内にはおよそ
100匹を超える猫たちがいる

SINRA

TOP

震災の記憶をたどる

宮城県・女川^{メウカ}まで来たのには目的があった。

石巻^{いしまたけ}の田代島^{たしろ}は「猫島」としてすでに知られるが、一方、女川沖に浮かぶ江島^えには猫がいない、という。

同じ宮城県の太平洋側にあり、牡鹿半島^{しんが}を隔てて、猫のいる島と猫のいない島——その不思議を探ろうというのが今回のテーマであった。

東北地方には震災後しばしば通ったが、なかでも女川の被害は壮絶を極めた。

一面が瓦礫^{がれき}の原と化し、港とおぼしき所には死臭が漂い、ウミネコが群飛^{ぐんひ}していた。

津波に流されたJR車両は山麓の寺まで達し、破壊されたまま墓地に横たわり、地獄絵巻を見るかのようだ。

津波の高さは14・8メートル、災害の廃棄物量は44万4000トン。これは通常廃棄量の115年分に及ぶ。死者、行方不明者は800人を超えた。

実は女川は思い出深い町だった。

昭和40年代頃の話。学生時代、ワシターフオーゲル部に所属していた。三陸地方は鉄道やバス路線が過疎で、徒歩が主体となり、バックパッキングの聖地とされていた。学生たちは寝袋と重いキスリングを担いで、秘境をめざしたのである。そんななかで女川は違った。この

町には活気があった。当時は鯨の町で、港はにぎわい、市場では鯨の解体作業が行われていた。引込線があり、貨車に積み込まれた肉塊が市場と女川駅を往復していた。独特の脂肪の匂いが潮風に混じり、そこそこに漂っていた。

港付近には酒場や飲食店が並び、夜のダンスホール、映画館はどこもが人であふれていた。

ぼくら徒歩旅行者は、久しぶりの「文明との出会いに心が弾んだ。酒場では、

「どこからきたあ？」

赤銅色の肌をさらけだした逞しい男たちに声をかけられ、歩いてきたことが面白がられた。

頼まないのにコップ酒と鯨肉が回ってきた。

日本人がまだまだ貧乏な時代、その剛毅なもてなしが嬉しかった。以来女川は特別な町として私の心の隅に残っていた。

今見る、女川の町は震災から5年余を経て、表面的には復興したかのようには思えた。

中心だったJR女川駅は山側に移り、現代感覚あふれるビルとして生まれ変わり、町を見下ろしている。駅前にはカフェやショップが並び、おしゃれな店舗群が復活していた。ゆるやかな坂の向こうには、昔と変わらぬ青い太平洋が広がる。

復興は駅と市場を中心にはじまり、

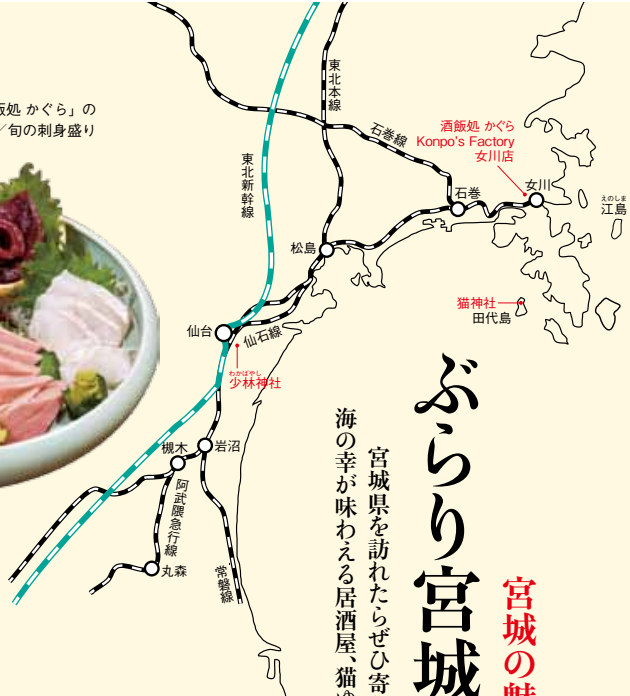
宮城県女川町の沖合13kmに浮かぶ「江島」はウニ・アワビなどの漁業が盛んな自然豊かな島だ

宮城 県

宮城の魅力、再発見!

ぶらり宮城寄り道ガイド

宮城県を訪れたらぜひ寄りたいたいおすすめスポットを厳選紹介。海の幸が味わえる居酒屋、猫ゆかりのスポットなど宮城の魅力に迫る。



左/「酒飯処 かぐら」の外観 下/旬の刺身盛り合わせ

酒飯処 かぐら

〈女川〉

女川の海の幸を味わう

「酒飯処 かぐら」は女川近海で獲れた旬の魚介類が堪能できる居酒屋。春はメロウド(イカナゴ)、生シラス、夏はホヤ、ウニ、秋はサンマ、カツオ、冬はアワビ、カキ、ナマコと、年間を通してさまざまな味覚が味わえる。生シラスはその日のうちに



金華山沖で獲れた「金華鱈」の焼き物は美味



左/輪ゴムで紙飛行機を飛ばす「拳銃型カタパルトキット」 右/迫力満点の「ダンボルギーニ・アペンダンボール」

Konpo's Factory

〈女川〉

■ 女川町女川浜字大原1-36 シーパルピアE棟18
 ☎ 0225-90-4235
 🕒 10:00~16:00
 🗓 水曜日

身近なものが大変身 「Konpo's Factory」は強化ダンボールの梱包資材を製造する今野梱包の直営店。店内では強化ダンボールで製作されたスーパーカー「ダンボルギーニ・アペンダンボール」を展示するほか、ダンボール製の「拳銃型カタパルトキット」「昆虫キット」などを販売。 「身近にあるダンボールからこんなものが!」と驚き、ワクワクするようなアイデア商品を展開している。震災時には強化ダンボールを小中高、幼稚園のための教室資材(ロッカー、間仕切り、下駄箱など)として活用。人々を楽しませるだけでなく、女川の復興にも貢献。日々、地元で新しい産業をつくり続けていく。



猫神社

〈田代島〉

猫のパワースポット

「猫島」として知られる石巻市田代島。仁斗田港から徒歩約20分、坂を上っていった島の中央部に美利大明神・猫神様を祀る「猫神社」が建っている。

毎年3月15日が祭日で、この日は幟を立て、供え物のマダロを供え、お神酒を献上、参詣するのが習慣となっている。

「猫神社」は2009(平成21)年4月、国土交通省「島の宝100景」にも選ばれている。田代島を訪れたら、ぜひお参りに行ってみよう。

■ 石巻市田代浜

猫神社の前には招き猫や猫の絵が描かれた小石などがたくさん置かれている



少林神社

〈仙台〉

猫神様の聖地

仙台市内の「少林神社」は「猫塚古墳」と呼ばれる直径約7〜8メートルの円墳の上に建っている。境内には猫塚古墳の標識はあるが、正確にはどの辺りに古墳があるかははっきりしていない。誤って猫の首を切ってしまうた殿様が、この地に塚を建てて猫を手厚く葬り、お参りするようになったという言い伝えの神社で「猫塚古墳ねこまつり」が開催され、ねこグッズの販売やねこ石をつくるワークショップなどが行われる。

■ 仙台市若林区南小泉1-8



上/神社の左手奥にある小さな石の祠「猫塚神社」には招き猫が奉納されている 下/神社の入口